

小 学 校

平成 2 4 年度

教育研究員研究報告書

道 徳

東京都教育委員会

目 次

I 主題設定の理由	1
II 研究構想図	2
III 研究仮説	3
IV 研究の方法	3
V 研究内容	3
1 基礎研究	3
2 調査研究	5
3 授業研究	7
4 実践事例	
(1) 第2学年 主題名：美しい心 3－(3) 畏敬の念	8
資料名：「七つの星」	
(2) 第3学年 主題名：美しい心 3－(3) 畏敬の念	12
資料名：「花さき山」	
(3) 第4学年 主題名：感動する心 3－(3) 畏敬の念	16
資料名：「一ぴきのセミにありがとう」	
(4) 第5学年 主題名：自然の偉大さ 3－(3) 畏敬の念	20
資料名：「コロナのかがやき」	
VI 研究の成果	24
VII 今後の課題	24

感動する心を磨き、畏敬の念を育てる道德の時間 ～感動の意識化を図る指導の工夫～

I 主題設定の理由

現行の小学校学習指導要領では、道德の時間を学校の教育活動全体の要として位置付け、道德教育の中核的役割を担うことが明示されている。さらに、人間としての在り方や生き方の礎となる道德的価値について学び、それを自己の生き方に結び付けながら自覚を深め、道德的実践力を育成する時間とすることも併せて示された。その背景には、個人の利害損得を優先させる考え方、他者への責任転嫁などの責任感の欠如、物質的な価値や快楽を優先させる考え方、真摯な努力を軽視する傾向などの社会的風潮がある。それは、児童の豊かな心の成長に影を落とし、児童が本来もっている人間としてよりよく生きようとする力にも大きな影響を与えていると考える。

また、科学技術の飛躍的發展に伴い、科学が万能であるかのような錯覚を生みかねない今日の社会においては、科学の更なる發展を期待し理性の力を信じるとともに、人間の説明を超えた美への感動や、崇高なものに対する尊敬や畏敬の念をもち、人間としての在り方を見つめ直すことが求められている。

道德教育とは、児童が人間としての在り方を自覚し、人生をよりよく生きるために、その基盤となる道德性を育成しようとするものである。また、すべての学校段階において一貫して取り組むべきものである。小学校段階で、美しいもの、気高いもの、崇高なものとの関わりを通して、それらに畏敬の念をもつことが、人間としての在り方生き方の自覚を重視した、中学校・高等学校における道德教育へと受け継がれていく。人間としての在り方をより深いところから見つめ直すことができるように指導するためにも、畏敬の念を培うことが重要である。

畏敬の念を培うには、児童が美しいものや人間の力を超えたものに感動し気付くことが大切である。人間が本来もっている心の崇高さ・偉大さ、真理を求める姿、自分の可能性に挑戦する姿、芸術作品の内に込められた人間の業を超えるもの、大自然の摂理、全てを包み込む大いなるものなどへの感動や気付きが、畏敬の念を培うことにつながる。

さらに、児童が人間としてよりよく生きるための基盤となる道德性を養うためには、様々な内面的な葛藤や感動などを体験し、道德的価値の自覚を深めていくことが必要である。「内面的な葛藤」については、道德の時間における資料を通して追体験することができる。感動することについては、美しいものや崇高なもの、人間の力を超えたものに関わった体験を語り合ったり、分かち合ったりする経験を重ねていくことで意識され、感動したときの感覚を長く持続できると考えた。

以上のことから、畏敬の念を培うために、児童に感動を意識させること（感動の意識化）をねらいとした指導過程を提案し、感動する心を磨き、畏敬の念を育てる道德の時間の在り方について研究を進めることとした。

II 研究構想図

<p>社会情勢</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会全体のモラルの低下 ・個人の利害損得を優先 ・責任感の欠如 ・物質的な価値や快樂の優先 ・真摯な努力の軽視 	<p>児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の社会風潮により、本来もっている人間としてよりよく生きようとする力が弱まっている。 	<p>学習指導要領 道徳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間を学校の教育活動の要として位置付け、道徳教育の中核的役割を担うことを明記 ・道徳的価値について学び、道徳的実践力を育成する時間 	
研 究 主 題			
感動する心を磨き、畏敬の念を育てる道徳の時間 ～感動の意識化を目指す指導の工夫～			
目 指 す 児 童 像			
美しいものや崇高なものに感動し、 感性豊かに物事を受け止めることができる児童			
低学年	中学年	高学年	
美しいものに気付き、そこで得た感動を素直に受け止めることができる児童	美しいものだけでなく、美しい心、気高いものにも素直に感動することができる児童	感動する心を磨き続け、目に見えないもの、人間の力を超えたものなど、崇高なものに対する畏敬の念を抱くことのできる児童	
研 究 仮 説			
資料を精選し、道徳の時間において感動の意識化を図る指導過程を工夫することで、児童の感動する心が磨かれ、畏敬の念を育てることができるであろう。			
基礎研究	調査研究（対児童）		
<p>○ 感動する心と畏敬の念に関する基礎的研究</p> <p>1 感動する心を「磨く」 ⇒感動する心の意識化を重ねることで、感動の自覚化につながる。</p> <p>2 畏敬の念 ⇒感動する心が育つことで、畏敬の念が育つ。</p>	<p>○ 感動の体験に関する実態調査 ⇒多くの児童が感動を体験していた。</p> <p>○ 人間の力が及ばないものへの感じ方についての意識調査 ⇒中学年は尊敬、高学年は未知や恐怖の項目を選択する児童が多かった。</p> <p>○ 感動の根拠についての実態調査 ⇒中学年は身近なもの、高学年は壮大なものに対して感動していた。</p>		
授業研究			
○感動の意識化を目指す指導の工夫（4校で計4回実施）			
<p>1 資料の精選（登場人物の感動場面が読み取れる資料を選ぶ）</p> <p>2 中心発問の工夫（登場人物の感動場面の言動から迫る）</p> <p>3 体験想起の工夫（中心発問を生かした体験の振り返り）</p>			
<p>第2学年 主題名：美しい心 3－（3） 「七つの星」</p>	<p>第3学年 主題名：美しい心 3－（3） 「花さき山」</p>	<p>第4学年 主題名：感動する心 3－（3） 「一ぴきのセミに ありがとう」</p>	<p>第5学年 主題名：自然の偉大さ 3－（3） 「コロナのかがやき」</p>

Ⅲ 研究仮説

資料を精選し、道徳の時間において感動の意識化を図ることで、児童の感動する心が磨かれ、畏敬の念を育てることができるであろう。

Ⅳ 研究の方法

1 基礎研究	2 調査研究	3 授業研究
<p>○感動する心と畏敬の念に関する基礎的研究</p> <p>1 感動する心が磨かれてこそ、人間の力を超えたものを素直に感じとる心が深まり、「畏敬の念」が育つと考えたこと。</p> <p>2 畏敬の念とは、美しいものや崇高なもの、人間の力を超えたものに対し、畏れ、敬い、尊ぶことであること。</p> <p>3 畏敬の念を育てるには、美しいものや人間の力を超えたものへの感動や気づきに着目し指導することが大切であること。</p>	<p>○感動の体験に関する実態調査（児童対象）</p> <p>○自然や非科学的な事象の捉え方についての意識調査（児童対象）</p> <p>○感動の根拠についての実態調査（児童対象）</p>	<p>○感動の意識化を図る指導の工夫（4校で計4回実施）</p> <p>1 資料の精選の工夫 登場人物の感動場面が読み取れる資料を選ぶ。</p> <p>2 中心発問の工夫 資料中の登場人物の感動の様子から、その感動の根拠を考えられるように発問する。</p> <p>3 体験想起の工夫 主発問の表現を生かして、自分の体験の振り返りを行う。</p>

Ⅴ 研究内容

1 基礎研究

感動する心を磨き、畏敬の念を育てる視点と感動の意識化について学習指導要領・参考文献を基に考察し、研究員間で共有化を図った。

【研究員間で共有化した事項】

○ 感動する心を磨く

小学校学習指導要領解道徳編説には、内容項目3－(3)に関して、『美しいものや崇高なもの、人間の力を超えたものとかかわりに関するものであり、それらに対して感動する心や畏敬の念をもった児童を育てようとする内容項目である。』とある。このことを踏まえ、「感動する心を磨く経験を重ねることにより、畏敬の念を育てることができる」とした。それは、「感動する心」が磨かれてこそ、人間の力を超えたものを素直に感じとる心が深まり、「畏敬の念」が育つと考えたからである。

「感動する心」を育てるには、児童の生活の中で心に響くような体験を豊かに味わわせ、その時に感じたことを声に出して言うてみたり、周りの仲間と共有したりすることが大切である。そうすることにより、今まで気にも留めずにいた「美しい」「すばらしい」と感じる自分自身の心の動きを自覚し、その感動を心に留めておくようになる。このことが、様々な場面において美しいものや素晴らしいものに触れたときに、素直に感動できる心へとつながっていく。道徳の時間においては資料を通して、自分自身の内面にある素直に感動する心を意識させ、周りの友達と感動を共有させることで、感動する心を育むことができると考えた。そこで、感動できる場面のある資料の精選に力を入れて取り組むこととした。

児童は、道徳の時間以外にも、日常の生活の多くの場面で感動することができるような様々な体験をしている。しかし、それを感動と捉えることができる心が育っていなければ、気付くことはできない。感動する心は、本来児童一人一人に備わっており、一人一人の感性をより一層豊かにすることが必要であると考え「感動する心を“磨き”」とした。

本研究会では「感動する心」を磨くことが、「畏敬の念」を育てる上で大変重要なこととして位置付けた。

○ 畏敬の念を育てる

内容項目3－(3)は、「人間の説明を超えた美への感動や、崇高なものに対する尊敬や畏敬の念をもち、人間としての在り方を見つめ直すことが求められている。」と小学校学習指導要領解説道徳編にある。また畏敬とは、『敬う』という意味での尊敬、尊重と、『畏れる』という意味での畏怖という面とが含まれている。」(中学校学習指導要領解説道徳編)「(崇高・偉大なものを)かしくまり敬うこと」(広辞苑)と説明されていることから、「畏敬の念」とは、美しいものや崇高なもの、人間の力を超えたものに対し、恐れ、敬い、尊ぶことであると捉えた。

「畏敬の念」をもつことにより、自他の生命の大切さや尊さ、人間として生きることの素晴らしさの自覚を深めることができる。また、生命あるものすべてに対する感謝の心や思いやりの心を育み、より深く自己を見つめながら、人間としての在り方や生き方の自覚を深めていくことができる。それは、他の人との関わりによる寛容・謙虚な心、粘り強くやり遂げる不とう不屈の心など、他の内容項目に関する価値の自覚を深めることにもつながると考えた。

【資料分析】

道徳の副読本に掲載されている「感動する心・畏敬の念」(内容項目3－(3)に該当すると思われるもの)に関する資料を収集し、分析した。収集した資料を、「場面」「登場人物の心の動き」「発問の意図」の項目で分析することによって、発問を吟味した。

2 調査研究

【調査目的】児童の感動体験やその根拠、人間の力が及ばないものに対する感じ方を調査する。

【調査対象】都内公立小学校9校の児童 低学年 121名、中学年 170名、高学年 331名

【調査時期】平成24年9月 【調査方法】質問紙法（選択式）

I 感動の体験についての質問

	質問	はい	いいえ
低学年	①みのまわりのしぜんを見て、「きれいだなあ」と思ったことはありますか。	93%	7%
	②音や音楽をきいて、「いいなあ」と思ったことはありますか。	90%	10%
	③お話をよんだりきいたりして、「いいなあ」とおもったことはありますか。	84%	16%
中学年	①身の回りの自然を見て感動したことはありますか。	93%	7%
	○「いいえ」を選んだ理由は何ですか。 何も感じないから…35% 体験が少ないから…19% 分からない…46%		
	②音や音楽などを聞いて感動したことはありますか。	93%	7%
	○「いいえ」を選んだ理由は何ですか。 何も感じないから…32% 体験が少ないから…30% 分からない…38%		
	③人の生き方や心に感動したことはありますか。	93%	7%
	○「いいえ」を選んだ理由は何ですか。 何も感じないから…29% 体験が少ないから…25% 分からない…46%		
高学年	①自然の美しさや偉大さに感動したことはありますか。	73%	27%
	○「いいえ」を選んだ理由は何ですか。 何も感じないから…17% 体験が少ないから…42% 分からない…41%		
	②絵画や音楽などの芸術作品に感動したことはありますか。	68%	32%
	○「いいえ」を選んだ理由は何ですか。 何も感じないから…30% 体験が少ないから…41% 分からない…29%		
	③人の生き方や心に感動したことはありますか。	56%	44%
	○「いいえ」を選んだ理由は何ですか。 何も感じないから…28% 体験が少ないから…23% 分からない…49%		

《感動の体験についての考察》

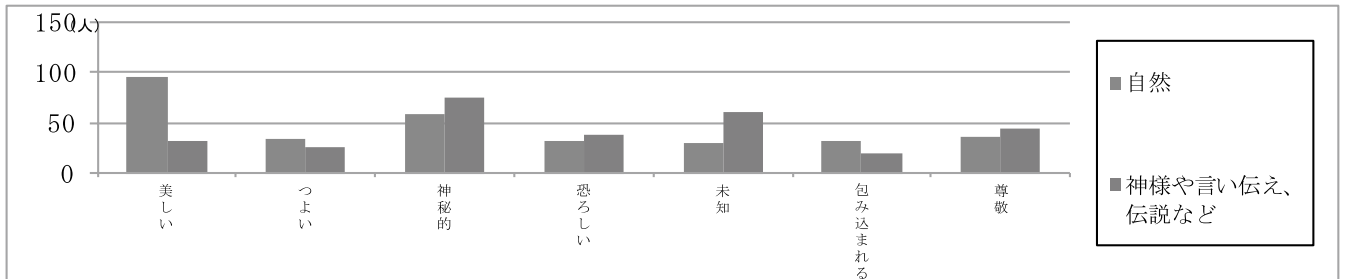
- ・どの学年も「はい」が「いいえ」を上回った。学年が上がると「はい」の割合が減っていくのは、素直に感動しにくくなったり、同じような体験に対して当たり前と感じるようになってくるからではないかと考えられる。
- ・高学年の児童は人の生き方や心に対する感動の体験が自然や芸術作品に対する感動の体験と比べて低い。このことから、人の心や生き方についての指導の際に、資料提示等の工夫が必要であることが分かった。
- ・「いいえ」を選んだ理由は、「わからない」と答えた児童が多かった。高学年の絵画や音楽などの芸術作品に対するものについては、「体験が少ない」が最も多かった。

II 人間の力が及ばないものについての感じ方についての質問

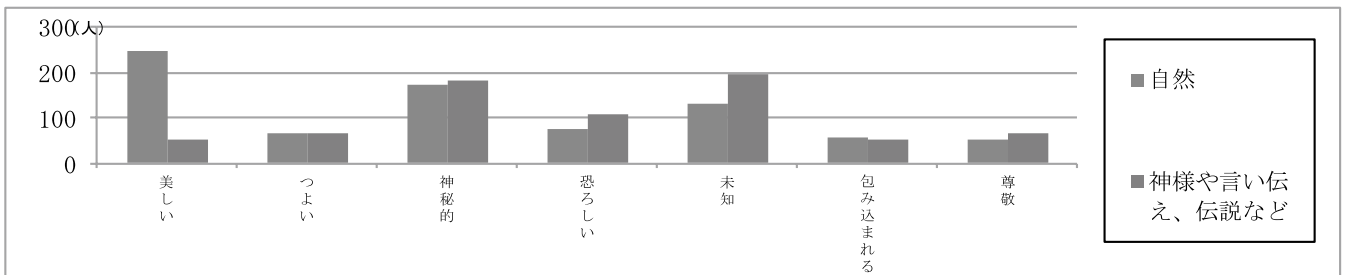
○次の二つの項目について、自分が感じていることに近い言葉を選んでください。

- ① 自然について。
- ② 神様や古くからの言い伝え、伝説など、科学では証明できないようなことについて。

【中学年】



【高学年】



《人間の力が及ばないものについての感じ方に関する考察》

- ・自然に対してイメージする言葉で多いものは中学年、高学年ともに、1位が美しい、2位が神秘的だった。このことから、学年が上がっても自然に対しては似たようなイメージを持っていることが分かった。
- ・神様や古くからの言い伝え、伝説など、科学では証明できないようなことに対してイメージする言葉で多いものは、中学年では1位が神秘的、2位が未知で、高学年では1位が未知、2位が神秘的となった。自然と同様、中学年も高学年も似たようなイメージを持っていることが分かった。
- ・中学年ではどちらの項目も3位に尊敬を選択したが、高学年では尊敬が3位までに入らなかった。このことから、高学年は、自然や科学で説明できないものを尊敬の対象ではなく、未知なるもの、恐ろしいものと感じていることが分かった。

《感動の根拠に関する考察》

○感動の体験に関する質問で、「はい」と答えた児童に対しその具体例を自由記述させた（中学年と高学年のみ）。その内容から次のようなことが考えられる。

- ・中学年では身近な自然に感動している児童が多いのに対し、高学年は旅先の景色やテレビで見たものなど壮大なものに対して感動している傾向がある。学年が上がると、より規模の大きなもの、壮大なものへの関心が広がっていくと考えられる。芸術については、高学年では自分の心や思いとつなげて感動している児童が多かった。

3 授業研究

感動する心と畏敬の念に関する基礎研究及び児童への質問紙法で行った調査研究の結果を基に、4回の授業研究を行った。この授業研究では、感動の意識化を図るために「資料の精選」「中心発問の工夫」「体験想起の工夫」を柱に検証授業を行った。

① 資料の精選

資料選択の際、児童の発達段階に応じ、資料そのものを感動させることを目的とするのではなく、児童が「登場人物はこのことに感動している。」と、捉えて考えることのできる資料を選んだ。「花さき山」では「花さき山に自分の花がさいたな。」と思うあや（主人公）の感動や、「コロナのかがやき」では「シャッターを切ることさえ忘れて見入ってしまった。」主人公の感動など、登場人物が感動している場面や具体的事象を捉えさせることで、感動の意識化につなげた。

② 中心発問の工夫

資料中の登場人物の感動の様子から、その感動の根拠を考えられる言動を生かし、発問構成を行った。まず、登場人物が感動している具体的事象を押さえ、登場人物の心の動きを児童に考えさせた。その上で「人間が本来もっている心」「真理を求める姿や自分の可能性に挑戦する姿」「人間の業を超えるもの」「大自然の摂理」「すべてを包み込む大いなるもの」などへの、美しさや気高さ、尊敬や畏れの気持ちを捉えさせた。そして、それらの原動力となる「感動の根拠」について考えることができるよう、資料中の文言から中心発問を設定した。児童が中心発問を通して「感動の根拠は自分の身近な所にもあるものである。」ことに気付くことができるようにした。

③ 体験想起の工夫

中心発問の表現を生かして体験の振り返りができるように、展開後段を工夫した。体験想起の際、「人の心の美しさにふれたことがありますか。」「美しい自然を見たことがありますか。」というように、資料を離れて児童の体験を問うのではなく、「みなさんは『花さき山に花が咲いたな。』と、思うようなことがありますか。」「ありがとうと言いたくなるような、美しいものを見たことがありますか。」「今まで、自然を見て、やるべきことをすることさえ忘れてしまうほど見入ってしまった体験はありますか。」など、中心発問での登場人物の言動等を活かした発問をした。主人公の気持ちを捉えた後で、主人公と同様の体験について想起することにより、登場人物の感動の根拠と同様の観点に沿って体験を振り返ることができるようにする。

4 実践事例

(1) 第2学年

- ① 主題名 美しい心 3－(3) 畏敬の念
- ② 資料名 「七つの星」
- ③ 研究主題に迫るための手だて

資料の精選について

【物語そのものに感動する資料を選ぶ】

※ 本資料の精選にあたっては、低学年の発達段階を考慮し、物語などに語られている美しいものや清らかなものに素直に感動するような体験を通してすがすがしい心をもつように指導することを大切にしたので、物語そのものに感動するような資料を精選した。

〈あらすじ〉

日照り続きで川も井戸もかれてしまった。病気の母に水を飲ませようと、ひしゃくを持った女の子は水を探しに出かけるが、疲れて寝てしまった。目が覚めるとひしゃくにはあふれんばかりの水が入っていた。不思議なことにその水はつまずいて転んでもこぼれない。死にかかった犬に水を飲ませるとひしゃくは銀色に。家に着き母に飲ませようとすると、「お前がお飲み」と言われ、女の子の手に戻されるとひしゃくは金色に。今にも倒れそうな旅人が訪ねて来たので、ひしゃくを渡すとダイヤモンドが七つ飛び出し、冷たい水もあふれ出した。ダイヤモンドは空高く登り夜空に輝くひしゃく星となった。



感動の根拠・・・人も動物も平等にいたわる行い、命を敬う行い、自己犠牲を伴う優しい行為

中心発問について

【登場人物の感動場面の言動から感動の意識化に迫る】

ひしゃくからダイヤモンドが飛び出し、夜空に輝く星となったのはなぜでしょう。

↓気付けさせたいこと 感動の意識化

美しい人の心

人も動物もなく命を最優先させる行い、自己欲望を抑え他者を優先する行い、命の尊厳を最大限に重視した選択、母から子への愛

体験を振り返ることについて

【中心発問をいかした体験の振り返り】

今でも心の中で星のように輝いているような話がありますか。

星みたいに輝いている

= 感動した話 =

「十二月」の女の子の心が美しいと思った。

想起の手がかり

「わすれられないおくりもの」でアナグマの優しい気持ちに感動した。

感動の意識化

④ 本時のねらい

女の子の美しい心に触れ、素直に美しいと感じるすがすがしい心を育てる。

⑤ 本時の学習

	学習活動（主な発問○と予想される児童の発言・）	指導上の留意点★ 工夫□
導入	1 星を見た経験を話し合う。 ○夜、星を見た時に、どんなことを思いましたか。 ・きれいだった。 ・優しい光だと思った。	★「きれい」という言葉を引き出すことで価値への方向付けを図る。
展開 前 段	2 資料「七つ星」を読んで話し合う。 ○病気のお母さんのために水を探していた時、女の子はどんな気持ちだったでしょう。 ・どこかに水はないかな。 ・お母さんに水を飲ませたい。 ○死にかかっている犬に出会った時、女の子はどんなことを思ったでしょう。 ・どうしよう。犬にあげたら水が減ってしまうし、あげないと死んでしまうし。 ・水をあげれば、一つの命が助かる。 ○母親に「おまえがお飲み。」と言われた時、女の子はどんな気持ちになったでしょう。 ・本当に飲んでいいの。 ・お母さんの命が助からない。 ◎女の子が、ぐとつばを飲み込み、旅人にひしゃくを渡すと、ダイヤモンドが飛び出し、星になったのはなぜでしょう。 ・女の子の心が美しいから。 ・女の子が優しいことをしたから。	□視覚的に美しさを感じ取らせるために、ブラックパネルシアターで資料を提示し、教室を薄暗くする。 ★ひしゃくに水が入っていたことや転んでもあふれなかったことを押さえる。 ★ひしゃくが銀に変わったことを押さえる。 ★お母さんの言葉でひしゃくが金色になったことを押さえる。 ★我慢できずに水を飲もうとしたことを押さえる。 □ペアやグループで話し合いをさせる。 ★女の子の心が美しいなどの発言が出たらどんな所が美しいのかを問う補助発問をする。
展開 後 段	3 今までの体験を振り返る。 ○今でも心の中で星のように輝いているお話はありますか。 ・「十二の月」の女の子の心が美しいと思った。 ・「わすれられないおくりもの」のアナグマの優しい気持ちに感動した。	★今までに読み聞かせした本を想起させる。 ★見たり聞いたりした感動した話が出たら、それも認める。
終末	4 教師の説話を聞く。	□教師が感動した本とその理由を話す。

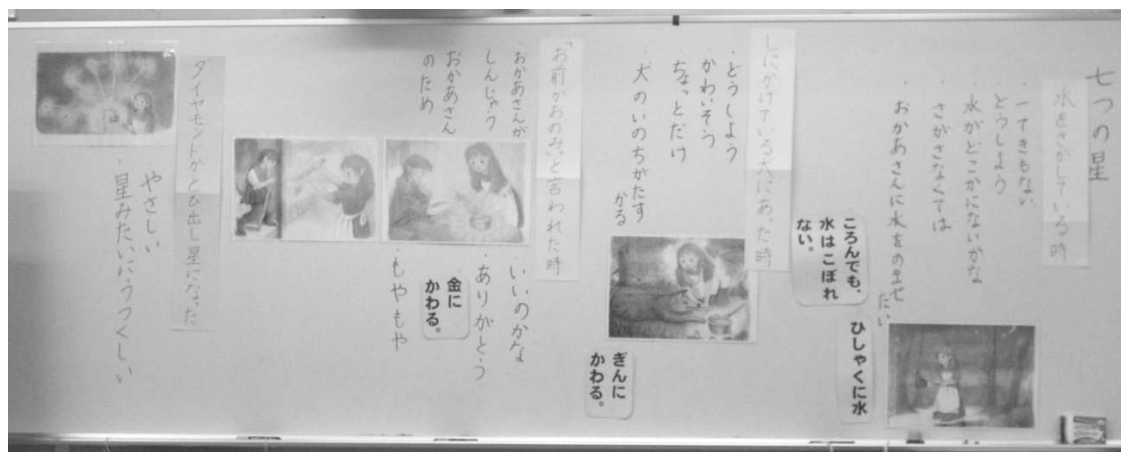
⑥ 評価

- ・女の子の心を素直に美しいと感じると共に、ひしゃくの色が変わったりダイヤモンドが星になったりするわけを考えることができたか。
- ・美しい物語に感動するような体験を話すことができたか。

⑦ 授業記録

学 習 活 動	
展 開 前 段	<p>T：どうしてダイヤモンドがとび出して星になったのでしょうか。</p> <p>※話し合い活動（3～4人のグループ）</p> <p>C：お母さんや犬の命を助けようとしたから。</p> <p>C：お母さんのために水を探したり、犬に水をあげたから。</p> <p>C：旅人にひしゃくを差し出したりしたから。</p> <p>T：どんな思いで、旅人にひしゃくを差し出したと思いますか。</p> <p>C：女の子も本当は飲みたいのだけど、旅人が今にも倒れそうだから水をあげたほうが いいと思った。</p> <p>C：女の子の心が七つの星みたいに美しいから、ダイヤモンドが星になった。</p> <p>T：女の子の心のどんなところが美しかったのですか。</p> <p>C：自分が飲みたいくても他の困っている人にあげたから。</p> <p>C：自分が飲みたいくても相手にあげていたから。</p> <p>C：困っている人を一番に考えていたから。</p>
展 開 後 段	<p>T：心の中で輝いているお話はありますか。</p> <p>C：「花さき山」に出てきた女の子や双子の男の子が、すごく我慢をされていて心がきれい だなと思った。</p> <p>C：「よだかの星」で、よだかは何も悪いことをしていないのに、みんなからひどいこと を言われたのに、しかえしをしないで、一生懸命星になろうとしていたことに感動 した。</p> <p>C：「きつねとぶどう」を読んだ時。</p> <p>T：「きつねとぶどう」のどんなところが心に残りましたか。</p> <p>C：お母さんぎつねが、子ぎつねを守ろうとして、自分が獵師に撃たれてしまったとこ ろが心に残った。</p> <p>C：「十二の月」の女の子の心が美しいと思って心に残った。</p> <p>T：女の子のどんなところが美しい心と思ったのですか。</p> <p>C：一生懸命働いたり、雪の中、お姉さんのために花を探しに行ったりしたところが美 しいと思いました。</p> <p>C：「光の星」に出てくる小さい星が、最後に、大きな光輝く星になって、そこがいいな あと思った。</p>

⑧ 板書



⑨ 成果と課題

成果

【資料選びについて】

- ・星や金・銀・ダイヤモンドと視覚的な美しさと、人の心の美しさを重ねて考えることのできる資料だった。

【中心発問について】

- ・「女の子がやさしかったから」という発言があったところで、「どんなところがやさしかったの」と補助発問をしたことで、ねらいに迫る発言を引き出すことができた。

【体験を振り返ることについて】

- ・感動した物語の内容だけでなく、「どんなところが美しいと思ったのか。」と補助発問をすることで、登場人物の心の美しさや自分の気持ちを結びつけて考えることができた。

課題

【資料選びについて】

- ・登場人物の感動が読み取れる場面がなかった。

【中心発問について】

- ・「ぐっとつばをのみこんで」という表現に着目させれば、自己犠牲や生命尊重の価値について考えることができたのではないかと。
- ・女の子の心情で発問を構成したため、主発問でも女の子の気持ちについて話し合っているグループがあったので、個別に支援し、発問の確認をする必要があった。

【体験を振り返ることについて】

- ・「畏敬の念」との関連性のない話をあげている児童がいたので、もう少し中心発問での話し合いを深める必要があった。

(2) 第3学年

- ① 主題名 美しい心 3－(3) 畏敬の念
- ② 資料名 「花さき山」
- ③ 研究主題に迫るための手だて

資料精選について

【登場人物の感動場面が読み取れる資料を選ぶ】

感動した人物・・・あや

<あらすじ>

山菜採りに行った際、山中を迷い一面美しい花の咲いた花さき山にたどり着き山んばに出会う。山んばの言うことには、辛さに耐え、自分のことより人のことを思って涙をためて辛抱すると、その優しさとけなげさがこの山に美しい花を咲かせるとのことである。誰かのために命をかければ、八郎や三コのように山をも作れるらしい。山から帰りお父やお母にそのことを話したが信じてもらえず、確かめに行くが花さき山は見付からなかった。



感動の根拠・・・山一面に咲く花の美しさ、その花を咲かせる美しい人間の心

中心発問について

【登場人物の感動場面の言動から感動の意識化に迫る】

もう一度山に行った時、花さき山は見つからなかったのに、「あっ、今、花さき山で、おらの花がさいてるな。」と、あやが思ったのはどうしてでしょう。

↓気付かせたいこと 感動の意識化

美しい人間の心

自己犠牲・自己抑制の精神に伴う行い、他者を優先させる行為、
他者・公のために命を懸ける行い

体験を振り返ることについて

【中心発問を生かした体験の振り返り】

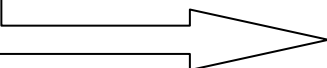
みなさんは、「花さき山に花が咲いたな。」と思うようなことがありますか。
それはどんなことですか。

花さき山に花が咲いたな

= 美しい人間の心 =

友達に優しくできた。

想起の手がかり



友達に励まされた。

困っている人を助けられた。

弟や妹のために我慢した。等

感動の意識化

④ 本時のねらい

人の心にある美しさや気高さに感動し、それを大切にしようとする心情を育てる。

⑤ 本時の学習

	学習活動（主な発問○と予想される児童の発言・）	指導上の留意点★ 工夫□
導入	1 齋藤隆介さんの作品を振り返る。 ○八郎や三コの話聞いてどんなことを思いましたか。 ・人のために命をかけて頑張る姿に感動した。	★本時のねらいへの方向付けを図ると共に、資料への興味をもたせる。
展開 前段	2 資料を読んで話し合う。 ○一番心に残ったのはどんなところですか。どうしてその場面を選んだのですか。 ・花が一面に咲いている所を見たい。 ・あやは新しい服が欲しいのを我慢していて偉い。 ・お母さんが困っているのを助けて偉いな。 ・としが変わらないのに我慢しているのはかわいそう。 ・たくさんの方が花を咲かせているんだな。 ・命をかけると山が生まれるなんてすごい。 ◎もう一度山に行った時、花さき山は見付かりませんでした。でもその後、あやが「あっ、今、花さき山で、おらの花がさいてるな。」と思ったのはどうしてでしょう。 ・頑張る姿をきくと誰かが見ていてくれると思った。 ・我慢することで美しい花が咲くと信じている。 ・本当だと思うと、つらくてもがんばれるから。	□資料に入り込みやすくするために、資料を提示する際にブラックライトとBGMを使用する。 ★児童が互いに語り合えるように、感動の根拠を聞く。 □児童が相互指名しながら花を手渡し、発言をつなげる。 □板書は最後にまとめて行う。 ★考えの根拠を聞き、人の心の美しさや、人間の力を超えた不思議さに気付かせる。 ★友達の考えを聞いて、どう思ったか伝え合えるように、板書を振り返りながら問いかける。
展開 後段	3 自分の生活を振り返る。 ○みなさんは「花さき山に花が咲いたな。」と、思うようなことがありますか。それはどんなことですか。 ・困っている友達に優しくした。 ・泣いていた時、友達が声を掛けてくれてやさしいなと思った。 ・自分から進んで教室をきれいにしてくれた人がいた。	□自分たちの花さき山を作れるように、花のカードに花が咲いたと思うことを書かせる。 ★その時の気持ち聞きお互いの心が清々しくなることに気付かせる。
終末	4 教師の説話を聞く。	□担任からの手紙を読む。

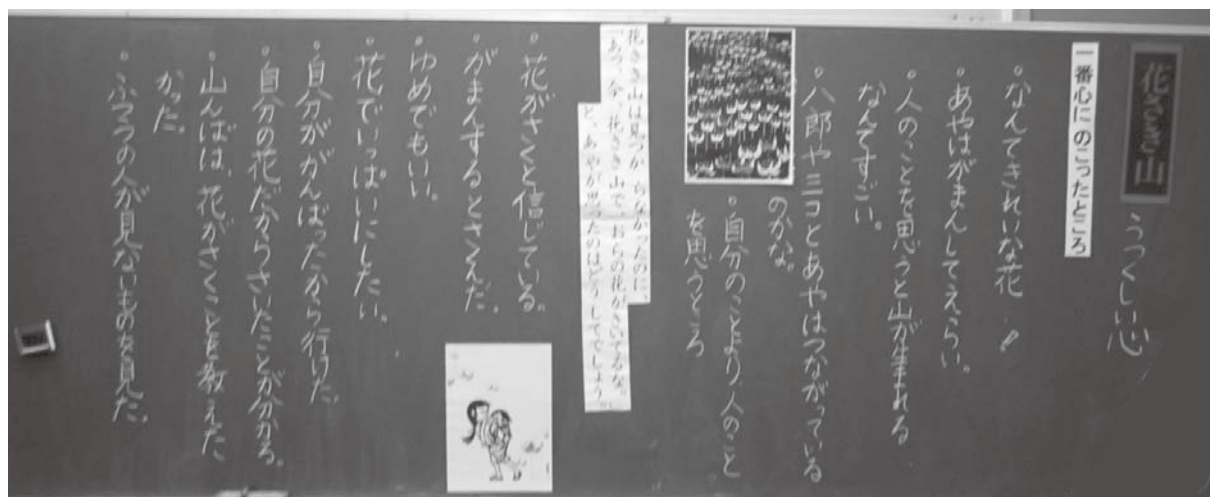
⑥ 評価

- ・あやの心の美しさに気付くと共に、あやが花さき山で自分の花がさいていると思ったわけを考えることができたか。
- ・自分の生活の中で、人の心の美しさとそれを感じることでできる具体的な行いを結びつけて振り返ることができたか。

⑦ 授業記録

学 習 活 動	
展 開 前 段	<p>T : もう一度山に行った時、花さき山は見つからなかったのに、「あっ、今、花さき山で、おらの花が咲いているな。」と、あやが思ったのはどうしてでしょう。</p> <p>C : 夢でおきたことだから。</p> <p>T : 他のみんなは、どう思う。</p> <p>C : 山んばは、我慢すると花が咲くことを教えたかったと、あやは思っているから。</p> <p>C : あやは、我慢すると花が咲くと信じているから。</p> <p>C : あやは、たとえ幻であっても、花でいっぱいになりたいなと思っているから。</p> <p>C : 自分が良いことをすると、花が咲くと信じている。</p> <p>C : 自分のことより人のことを優先すると、花は咲くと思っている。</p> <p>C : 我慢すると、花は絶対に咲いていると信じている。</p> <p>C : 自分が頑張っていたから、花さき山に行けたと思っているから。</p> <p>C : 自分の花だから、咲いたことが分かるのだと思う。</p> <p>C : (「三コ」に出てくる) おんちゃと「美しい行いをする」というつながりがあると思った。</p> <p>C : 自分の花が咲いていると信じたから、花さき山が見つからなくてもそう思った。</p> <p>C : 夢かな、幻かな、普通の人には見えないものがあやには見えたのだと思う。</p> <p>T : みんなの意見を聞いてどう思った。</p> <p>C : 普通の人が見えないものを見たと思った。</p> <p>C : 友達の意見を聞いて、あやは、花が咲くと思って辛いことも頑張れたのだと思った。</p>
展 開 後 段	<p>T : みなさんは、「花さき山に花が咲いたな。」と思うようなことがありますか。それはどんなことですか。</p> <p>C : 飼っているハムスターが死んで悲しい思いをしていた時、一緒に涙を流して傍にいてくれた友達がいた。その子の花が咲いたと思う。</p> <p>C : 書写の時間に、墨の掃除を、〇〇さんが進んでやっていた。自分はやりたくなかったから偉いなと思ったし、花が咲いたと思う。</p> <p>C : 係決めの時、自分がやりたい係を我慢して、他の係に移ってくれた子がいた。その子に「ごめんね。」と言うと、「いいよ。大丈夫だよ。」と笑顔で言ってくれて嬉しかった。その子の花が咲いたと思う。</p> <p>C : 3年1組のみんなが、良いと思うことを進んでやったり、友達のために自分がやりたいことを我慢したりしているので、みんなの花が咲いていると思う。</p>

⑧ 板書



⑨ 成果と課題

成果

【資料選びについて】

- ・「花さき山」の資料を選んだことは、美しい心の行いが身近で想像しやすかった。
- ・普段会うことのない山んぼや、幻かもしれない花さき山の存在は、「どこかで誰かに見られているかもしれない」という意識に繋げることができる。

【中心発問について】

- ・あやが、花さき山に花を咲かせたいと思って、進んで美しい行いをしたいとする思いを、多様な理由から考えることができた。

【体験を振り返ることについて】

- ・花さき山に花を咲かせそうな行いを、誰かのことを思って我慢すること、優しくすることなど、美しい心の行いと結びつけられることができた。

課題

【資料選びについて】

- ・「三コ」や「八郎」の件が入った資料を扱うことで、焦点を当てたい「あや」の行いから意識がずれてしまう場面が見られた。あやという登場人物の感動に焦点をあてるのであれば、「三コ」や「八郎」の件のない資料を扱った方がよかった。

【中心発問について】

- ・「あやが『あつ、今花さき山でおらの花が咲いているな。』と思ったのはどうしてか。」と問われているのに、「なぜあやは花さき山に行くことができたのか」を考える児童がいて、児童の発問の捉えが曖昧な部分があった。発問が長いので、途中で切りながらゆっくり児童に説明したが、それに加えて曖昧な部分は再度確認するべきであった。

【体験を振り返ることについて】

- ・中心発問で、花さき山に花を咲かすことのできる行いとして「人のために我慢すること」と確認したが、「自分の欲求を我慢した」ことに終始してしまった児童がいた。「人のために」という視点から自己の体験を想起できるよう、途中で、児童のつぶやきを拾ったり、「人のために」ということを確認したりする必要があった。

(3) 第4学年

- ① 主題名 感動する心 3-(3) 畏敬の念
- ② 資料名 「一ぴきのセミにありがとう」
- ③ 研究主題に迫るための手だて

資料の精選について

【登場人物の感動場面が読み取れる資料を選ぶ】

感動した人物・・・**セミの羽化を見ている私とその家族**

〈あらすじ〉

セミの羽化の瞬間に立ち会う私と家族。セミの幼虫が細い枝に必死に登り、足の先を木の皮に食い込ませる。背中が割れ始め、体を震わせながらゆっくりと頭を出す。続いて細い足、小さな羽、おしり。やっと生まれてきた成虫はエメラルドグリーンに輝いて見える。縮んでいた羽もぴいんと伸び、まるで空から降りてきた天使のようだ。家族みな、身動きもせず見つめていた。生命の神秘に触れ、セミに「ありがとう」と言いたくなった。いつもはうるさく思っていたアブラゼミの合唱だったが、今年は元気に鳴いて欲しいと感じている。



感動の根拠・・・**神秘的な生命の誕生、見る者を釘付けにするセミの姿**

中心発問について

【登場人物の感動場面の言動から感動の意識化に迫る】

私は、「ありがとう」という言葉で、セミにどんな気持ちを伝えたかったのでしょうか。

↓気付かせたいこと **感動の意識化**

自然の摂理や生命の神秘を感じられる美しいもの

誰から教わることもないのに必死に生きようとする生き物の本能的な習性、地球上で数限りなく続けられてきた生命誕生の奇跡

体験を振り返ることについて

【中心発問を生かした体験の振り返り】

「ありがとう」と言いたくなるような美しいものを見たことがありますか。そのときの様子はどうでしたか。また、どのような気持ちになりましたか。

「ありがとう」と
伝えたいような

=

自然の摂理や
生命の神秘を
感じられる
美しいもの

=

懸命に働く蟻の行列
雪の結晶
虹の架かった空
蛍が光を発している姿 等

想起の手がかり

感動の意識化

④ 本時のねらい

羽化するセミの神秘的な美しさに心打たれる主人公の気持ちを考えることを通して、神秘的な自然の美しさに素直に感動する心情を養う。

⑤ 本時の学習

	学習活動（主な発問○と予想される児童の発言・）	指導上の留意点★ 工夫□
導入	1 セミの抜け殻を見る。 ○これは何でしょうか。 ・セミかな。 ・見たことがある。	★成虫とは全く姿が違うこと、幼虫の形そのままの抜け殻であることにも触れ、児童が生命の神秘を感じられるようにする。
展開前段	2 資料を読んで話し合う。 ○少しずつ殻から出てくるセミを、私はどんな気持ちで見守っていたのでしょうか。 ・なんだかワクワクするな。・がんばれ、がんばれ。 ・なんて不思議なのだろう。 ○羽化したセミに見とれて身動きもできずにいるわたしは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・なんて美しいのだろう。・すごいな。 ・本当に神秘的だ。 ・言葉では言い表せないくらいきれいだ。 ◎わたしは「ありがとう。」という言葉で、セミにどんな気持ちを伝えたかったのでしょうか。 ・こんなに感動させてくれてありがとう。 ・こんなに美しいものを見せてくれてありがとう。 ・神秘的なものを見せてくれてありがとう。	★羽化を見守る主人公の期待や応援する気持ち、驚きを押さえる。 □羽化の動画を見せ、児童が主人公の気持ちに一層共感できるようにする。 ★実際には何時間もかけて羽化することを確認する。 □エメラルドグリーンに光る成虫の姿とそれを見つめる家族の場面絵を共に掲示し、感動に包まれる場面の雰囲気を出す。 □ペアまたはトリオでの話合いの後、全体での話合いを行うことで感動の意識化を促す。
展開後段	3 自分自身を見つめる ○ありがとうと言いたくなるような、美しいものを見たことがありますか。そのときの様子はどうでしたか。また、どのような気持ちになりましたか。 ・夕日がきれいだった。ワーっと思った。 ・青い海がキラキラ輝いていて、本当にきれいだった。 ・目の前で大きな富士山を見たとき、すごく感動した。 ・金環日食を見たとき、何も言えなくなった。	□同じような事柄について感動した児童がいる場合も、感動の根拠やその時の思いについて聞き、違いが分かるようにする。 □事前のアンケートを基に意図的に指名する。
終末	4 教師の説話を聞く。	★教師自身が身近な自然の美しさに心打たれた体験を話す。

⑥ 評価

- ・羽化するセミの神秘的な美しさに心打たれ、「ありがとう」と言いたくなった主人公の気持ちを考えることができたか。
- ・自然の神秘的な美しさや不思議さに素直に感動する自分の心に気が付くことができたか。

⑦ 授業記録

	学 習 活 動
展 開 前 段	T : 私は「ありがとう。」という言葉で、セミにどんな気持ちを伝えたかったのでしょうか。
	C : 命の大切さを教えてくれてありがとう。
	C : 一生懸命生きることを教えてくれた。
	C : きれいな姿を見せてくれてありがとう。
	C : 生きる姿を目の前でを見せてくれてありがとう。
	C : 神秘的な姿を見せてくれてありがとう。
	T : 神秘的とはどういう意味だと思いますか。
	C : 神業。
	C : 言葉にできないぐらい。
	T : 他に意見はありますか。
	C : 感動させてくれてありがとう。
	C : 小さな命の誕生を見せてくれてありがとう。
	C : 生まれる時はきれい。
	C : 誕生の時は神秘的。
	T : 「ありがとう。」と言いたくなるような美しいものを見たことがありますか。そのときの様子はどうでしたか。また、どのような気持ちになりましたか。
	C : アメリカのグランドキャニオンの朝日を見たとき。
C : 沖縄の海を見たとき。海が透きとおっていて、魚がよく見えた。	
C : 海がきれいだった。連れてきてくれてありがとう。	
C : 湖の上に氷が張っていて、そこに雪が降ってキラキラ光っていた。	
C : 北海道で、夏なのに氷が集められていた。すごいなあと思った。	
C : お店の看板が夜に光っていて、そこに雪が降ってきた。	
C : 湖に日が当たっていた。	
C : サッカーの試合で、メッシ選手のプレイを見た。試合に連れてきてくれてありがとう。	
C : ガラス張りの床から海の中を見たとき。	
C : 金環日食を見たとき。	
T : 金環日食はみなさん見ましたか。どんな気持ちでしたか。	
C : 今まで見たことなかったからすごいな。	
C : 神秘的でなかなか見られないからすごいな。	
C : 珍しいから見ておいてよかった。	
C : 他のことですが、スノーボーをやっている時に、雪の結晶を見たとき。	
C : つららを見たとき、光っていて冷たかった。	

⑧ 板書



⑨ 成果と課題

成果

【資料選びについて】

- ・ 児童の生活に身近な内容を取り扱った資料であり、考えやすかった。
- ・ 普段何気なく見ているセミが、神秘的な自然の美しさをもっているということに気付かせることで、「感動」に結び付けることができた。

【中心発問について】

- ・ 「ありがとうと言いたくなるような美しいもの」を考えさせることで、「神秘的」「感動」など、主題に関連する気持ちを児童に考えさせることができた。

【体験を振り返ることについて】

- ・ 中心発問の「ありがとうと言いたくなるような」という言葉を手がかりとしたことで、児童が自己の感動体験を数多く想起することができた。

課題

【中心発問について】

- ・ 「神秘的」「感動」とはどのようなことかについて、教師側の捉えを全体で確認すれば更に話し合いが深まったのではないか。

【体験を振り返ることについて】

- ・ 美しいものは、遠くの特別な場所でのみ見られるものでなく、日頃の何気ない風景の中にもあるのだということを展開前段の後に押さえると、振り返りに身近な美しさが出やすかったのではないか。
- ・ 「ありがとう」の対象が美しい場所に連れて行ってくれた人に向いていた児童がいた。何に対する「ありがとう」なのかを再確認するとよかった。

(4) 第5学年

- ① 主題名 自然の偉大さ 3－(3) 畏敬の念
- ② 資料名 「コロナのかがやき」
- ③ 研究主題に迫るための手だて

資料の精選について

【登場人物の感動場面が読み取れる資料を選ぶ】

感動した人物・・・**皆既日食を見ている私**

〈あらすじ〉

皆既日食の撮影のためインドネシアに向かった私。太陽が完全に隠れる時間は20世紀中二番目の長さ。見られる地域は幅約200kmに限られる。当日の天気予報は雨。日食開始の時刻が迫ると雨は止み、太陽が奇跡的に顔を出した。興奮を抑えながらカメラをセットする私。太陽が次第に欠けていく。ダイヤモンドリングに感嘆の声を上げる私。神々しいまでに美しいダイヤの輝きが消えると、黒い太陽をコロナの青白い輝きが縁取る。シャッターを切ることも忘れ、涙ぐみたいほどの感動を味わい5分11秒が永遠に感じられた。



感動の根拠・・・**限りなく大きな宇宙の劇的な営み、美しく神秘的な日食の様子**

中心発問について

【登場人物の感動場面の言動から感動の意識化に迫る】

「私」がシャッターを切ることさえも忘れて見入ったのはなぜでしょう。

↓ 気付かせたいこと **感動の意識化**

自然の偉大さや、すべてを包み込む大いなるものの存在

神々しいまでに美しい大宇宙の神秘さ、
大きな宇宙で繰り広げられる奇跡、人間の力の及ばない大いなるもの

体験を振り返ることについて

【中心発問をいかした体験の振り返り】

今までの体験の中で、自然を見てやるべきことをすることさえ忘れてしまうほどに見入ってしまったことはありますか。

やるべきことさえ
わすれてしまうような

= 自然の偉大さや
すべてを包み込む
大いなるものの存在

= 満天の星空
水平線に沈む太陽
大昔に発せられた星の光
富士山の景色 等

想起の手がかり

感動の意識化

④ 本時のねらい

大自然の摂理に感動し、人間の力を超えたものについておそれ、敬う心情を育てる。

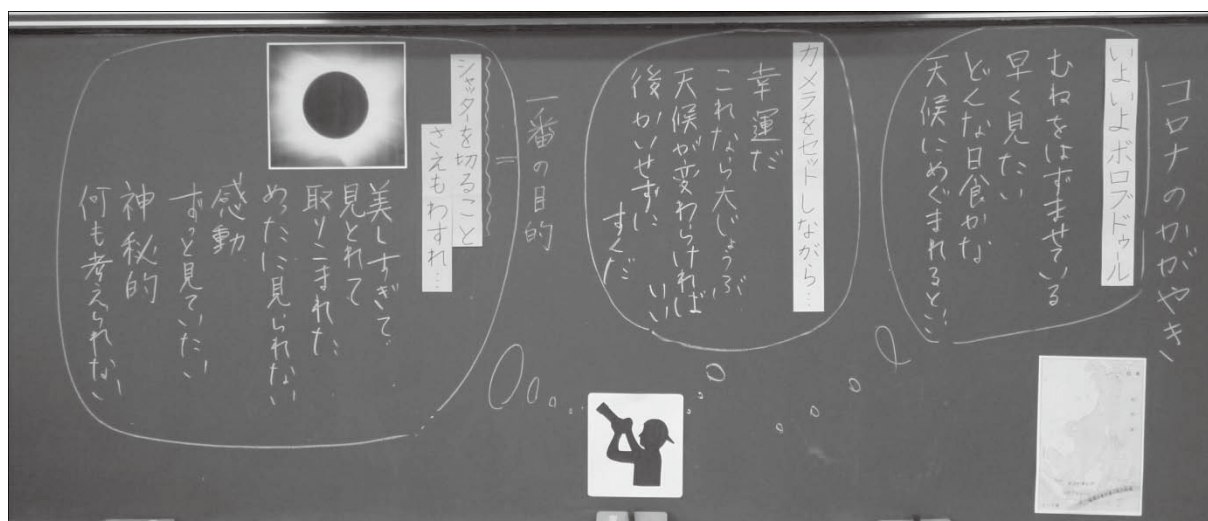
⑤ 本時の学習

	学習活動（主な発問○と予想される児童の発言・）	指導上の留意点★ 工夫□
導入	1 金環日食を見たときに感じたことを思い出す。 ○金環日食を見たとき、どんなことを感じましたか。 ・不思議な感じがした。 ・見とれてしまった。	□日食の仕組みを説明する。
展開前段	2 「コロナのかがやき」を読んで話し合う。 ○「わたし」は、どんな気持ちでボロボドゥールに向かっていたでしょう。 ・早く見たい。 ・いよいよ見ることができる。 ○奇跡的に天候が回復し、カメラをセットしている「わたし」は、どんなことを考えていただろうか。 ・奇跡が起きた。 ・早く日食が見たい。 ◎「わたし」が、シャッターを切ること（一番の目的）さえも忘れて見入ったのは、なぜでしょう。 ・今まで感じたことのないほど感動したから。 ・想像していなかったほどの光景を見たから。 ・とても神秘的だったから。	★期待に胸が膨らむ「わたし」の気持ちに共感させる。 ★あきらめから、見られるという期待へと「わたし」の気持ちが高まっていく様子を押さえる。 ★「わたし」が体験した感動の理由は何か、想像させる。 □発問の前に皆既日食の映像を見せ、「わたし」の思いに共感させる。 □グループでの話し合いののちに、全体での話し合いを行う。
展開後段	3 自分の感動の体験を振り返る。 ○今まで、自然を見て、やるべきことをすることさえ忘れてしまうほど見入ってしまった体験はありますか。それはどんなときですか。また、そのとき、何を感じましたか。 ・西の空を染める美しい夕日を見たとき。 美しさに、涙が出そうになった。 ・アリの仲間と一緒にえさを運ぶ様子を見たとき。 どんな方法で協力しているのか不思議に思った。	★自分自身の自然体験を思い起こさせる。 ★身近なところに感動があることに気付かせる。 □意見が出にくいときは、事前にとったアンケートから意図的に指名する。
終末	4 教師の説話を聞く。	★雲の映像から、身近な場面で「自然の偉大さ」を感じることができると伝える。

⑥ 評価

- ・皆既日食に感動する「わたし」の気持ちを考えることができたか。
- ・自分の周りの美しいものに素直に感動し、人間の力を超えたものに対する畏敬の念について考えることができたか。

⑧ 板書



⑨ 成果と課題

成果

【資料選びについて】

- ・児童の金環日食を見た体験が生きる資料だった。

【中心発問について】

- ・「一番の目的としていたことを忘れるほど」と問うことで、感動した様子と感動の対象が結びつきやすく、理由について多様な意見が引き出せた。

【体験を振り返ることについて】

- ・「一番の目的を忘れるほど感動した」と中心発問でしっかりと押さえたため、体験の想起がしやすかった。
- ・児童の「見とれる」という表現が、児童が感動を想起するきっかけとなった。

課題

【資料選びについて】

- ・月と太陽の大きさや距離の違い、日食のしくみなどについては事前に理解させておく必要がある。

【中心発問について】

- ・「忘れてしまうくらい」という表現への押さえが甘かったため、「写真より自分の目に納めたかったから」と自分の意志が入ってしまう発言があった。
- ・友達の発言に対して、「今の意見について自分はどう思うか」と他の児童に問うことで、一つの意見をより深めることができたのではないかと。

【自分の体験を振り返ることについて】

- ・感動は身近にたくさんあるが、見逃していることがあることを押さえるとよかった。

VI 研究の成果

(1) 基礎研究

- ・ 道徳の副読本等に掲載されている「感動する心・畏敬の念」に関する資料を収集し、十分な分析を行った上でそれぞれの特長を把握し、授業研究で活用できた。
- ・ 児童の生活に身近な内容やこれまでの経験を生かす資料、また、登場人物の感動場面が読み取れる資料を精選し、児童が感動を共有することで、感動の意識化につなげることができた。

(2) 調査研究

- ・ 感動した経験をもつ児童はどの学年にも多く見られたが、学年が上がるにつれ素直に感動できなくなったり、感動した体験が当たり前と感じられるようになってきたことが分かった。
- ・ 感動を授業の中で取り上げ、意識化させていくことが重要であることが明確になった。
- ・ 学年が上がるにつれて人間の内面に関連付けて感動を見出すことができることが分かった。

(3) 授業研究

- ・ 中心発問に対し、ペアや少人数のグループで話し合いをさせた後に、全体の話し合いを行うことで、感動の意識化を促すことができた。
- ・ 感動することは、無意識に行われているが、事象・現象に対して児童が事前にもっている情報の量が増えることによって感動できる機会が増えることが分かった。
- ・ 感動体験を声に出して言ってみたり、友達と共有したりすることで、児童が感動したときの感覚が持続することが分かった。
- ・ 感動した根拠を問うことで、感動を与えてくれる事象、行為、心などを具体的に考えることができ、児童が体験を振り返ることができた。
- ・ 中心発問の表現を活かして体験を振り返ることで、多くの児童が登場人物の感動の根拠と同様の観点で体験を想起することができた。

VII 今後の課題

- ・ 感動が意識されたかどうかの見取り方を更に工夫していく必要がある。
- ・ 児童の実体験から、自然を見て美しいと感じたり神秘的と感じたりした体験は想起しやすいが、自己犠牲や生命尊重に関連した体験は少ないため、物語を読んだり、映像で見たりするなど間接的な体験を中心として、自分との関わりの中で振り返らせる工夫を研究していく必要がある。

平成24年度 教育研究員名簿

小学校・道徳

地区	学校名	職名	氏名
新宿区	牛込仲之小学校	主任教諭	蕎麦田佳子
台東区	金竜小学校	主任教諭	◎俣野 貴昭
杉並区	桃井第四小学校	主任教諭	上野 和子
豊島区	池袋第三小学校	主任教諭	板場真理子
江戸川区	平井第二小学校	主幹教諭	○白石 芳江
町田市	町田第四小学校	教諭	林 慎一郎
小平市	上宿小学校	主任教諭	松井 良
東大和市	第二小学校	主任教諭	小瀬水陽子
西東京市	中原小学校	主幹教諭	○櫻井 伸彦

◎世話人 ○副世話人

[担当] 東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 二ノ宮 正信

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課

指導主事 江島 しのぶ

平成24年度
教育研究員研究報告書

小学校・道徳

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成24年度第243号〕

平成25年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6882
印刷会社 株式会社 イマイシ